

第1回ワークショップ

ワークショップのまとめ

- 日 時：平成29年9月3日(日) 10:20～
- 場 所：水梨文化館
- 参加者：17名（地元住民9名、宮城県3名、
気仙沼市2名、NPO法人3名）

1. 開会挨拶（水梨地区集落協定 齋藤司 代表）

2. WSについて（宮城県気仙沼地方振興事務所南三陸支所 澤畑康雄 技術次長）

【目的】

中山間地域の問題点を整理して、継続的な多面的機能発揮の活動を行うにはどのようなことが必要かを話し合う。

【話し合う内容】

- ・今の問題点や課題を整理する。
- ・多面的機能支払や中山間地域等直接支払制度を継続するにはどうするか、何をするかを検討する。
- ・時期対策に向けた取り組みをどうするか検討する。

【全体計画】

- ①ワークショップ(今回)：問題点や課題を抽出し、対策をまとめる。
- ②フィールドワーク：現場で草刈り作業の方法を検討する(機械のデモンストレーション等)。
- ③先進地視察：山形県川西町高山地区、草刈隊、JA等との意見交換会。
- ④住民活動支援とりまとめ：活動成果のとりまとめ、成果発表会、等。

3. ワークショップ (NPO法人あぐりねっと21)

①構成員氏名、年齢の確認

- ・氏名：齋藤氏(9名中6名)、小山氏、熊谷氏、菅野氏
- ・年齢：47歳(若手)、60代3名、70代2名、80代3名。
後継者も50代、60代が中心

②地域の作物

- ・水稻、じゃがいも、白菜、ねぎ、を栽培している。
- ・家族や親戚で消費する。産直等には出荷していない。
- ・作付け出来る面積が小さく、商売にはならない。

③多面的機能、中山間支払等の活動内容

- ・道路の草刈り(共同作業)、法面の草刈り(年3～4回、一番大変)、花の植栽など。

④問題点と対策

【草刈り作業】

- ・全員兼業農家で仕事をしているため、共同作業が難しい。土日しか作業ができない。
- ・地区内の法面の面積が広い(耕作地＝法面)が、ひとつひとつの面積は小さく、大きい草刈機だと余計に大変なため、手刈りをしている。
- ・法面の傾斜がきついため、作業が大変。技術が必要である。
- ・後継者がいる人は作業を手伝ってもらえるが、後継者がいない人は今後はできない人がでてくる可能性がある。すでにできない人も出ており、耕作放棄地も増えている。
- ・今後、作業協力してもらえる NPO や森林組合等への委託を考えていく必要がある。

【地域活動や農業経営】

- ・清掃活動やコミュニティ活動等色々あり、土日しかできないため大変である。
- ・地域を守っていくため、先祖代々の土地を守るために耕作しているが、利益はない。
- ・米の食味品評会で96点の高得点が出るほど美味しい米ができるが、収量が少ないため、販売が難しい(6～7t)。
- ・兼業のため、農業収入は土ゼロならばなんとか続けていけるので、今の状態を維持して守っていききたい。
- ・耕作放棄地を何とかしていきたい。

4. 次回について（宮城県気仙沼地方振興事務所南三陸支所 澤畑康雄 技術次長）

- ・草刈り機のデモンストレーションを行ってみて、機械導入を検討する。
- ・作業協力してもらえる団体(NPO や森林組合等)への委託の検討をする。
- ・9月、10月中にできるよう、会長と相談しながら日程調整する。

以上

